

1月のコラム ～年賀状あれこれ～

新年 明けましておめでとうございます。

元旦の楽しみの一つ年賀状。中学、高校、短大、初めての就職先、職を変えるごとに増えていく知り合い・・・年賀状は、年に一度更新される私の財産目録のように思えます。長い間会っていなくても、離れていても結婚、出産、新しい仕事といったそれぞれの人生の節目や近況を知ることができます。

最近、ご自身の趣味の紹介や可愛い盛りのお孫さんの写真が目立つようになりました。お会いするのは、数年どころか何十年に一度とか、もうお目にかかる機会はないかもしれない方も多いのですが、年賀状は、1枚1枚が近況を想像し、過去へと想いを巡らせる温かい時間をもたらしてくれます。

ところで年賀状は、いつ頃から始まったのでしょうか？もしかして、バレンタイン等と同じように郵政省の「しかけ」？と思ったのですが、実は年賀状には1000年を超える歴史がありました。平安時代の貴族、藤原明衡がまとめた手紙の文例集の中に“年始の挨拶の文例”があるそうです。昔から文例ってあったんですね！これにもびっくり。

では、年賀はがきは？昨年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の中でも一大事業として描かれていましたが、明治4年に郵便事業が開始され、明治6年に「はがき」が誕生しました。明治20年前後には、年賀状を出すことが年始の恒例行事となり、多くの人が「1月1日」の消印を押してもらうために、年末頃に年賀状を投函し、郵便局の仕事量は普段の何十倍にも跳ね上がったそうです。その対策として、「年賀郵便」の特別取扱が始まりました。これが現在のように、年末に年賀状を受け付け、元日に配達されるという制度です。その後1949年に、民間人のアイディアで、お年玉つき年賀はがきが登場したそうです。

今やメールやSNSでのやり取りが通常の連絡手段となり「新年の挨拶状は今年で最後に・・・」というメッセージも何通かいただきました。それも時代の流れですが、私は、一人ひとりの個性を感じる紙の年賀状が好きです。今年いただいた中で一番の年賀状は、最も頼れる社労士仲間からのもの。とても優秀で美人な彼女が、事務所スタッフさんと“虎の着ぐるみ”を身に付けて楽しいポーズ！その心意気とふりきり度に感動しました！イメージだけご紹介。すごいでしょ！ ⇒ ⇒



そういう自分は、お手軽印刷ですませてしまいましたが、今年こそは、コロナが治まり海外旅行・ダイビング・お芝居等ができて、写真をたくさん貼り付けた年賀状が復活できますように！